

ご 報 告

## 医療サービス委員会の活動ご報告 全員参加の接遇研修を実施しました。

今年1月に実施した患者満足度調査の結果を受け、いま一度全職員がよりよい「接遇」について考える機会を設けることを目的に、去る10月、「接遇研修」を実施しました。社員はもとより契約社員、委託業者を含め全スタッフを対象に、講義は現場で働く当院の職員が担当。患者サービスとは何かを原点に、望ましいコミュニケーションから必要な配慮、言葉の使い方に至るきめ細かな内容は、多くの職員にとって新たな発見と納得があったようです。当院ではこれからもさまざまなかたちで職員一同心を合わせ、患者さんにご家族のご満足を追求し、信頼にお応えしてまいりたいと願っています。

「接遇研修」 於・3階講堂  
実施日時 10月12日～15日  
(計10回開催)

講 師 事務次長 人見 高史  
理学療法士 河野 竜也  
薬 剤 師 盛谷 翔太



密集を避けるため、  
市松模様に配席しました。

### 「挨拶月間」活動も

また、医療サービス委員会では、10月を「挨拶月間」として院内から募集したポスターコンテストや挨拶運動などを実施しました。今後も医療サービス向上を目指すさまざまな活動を行なってまいります。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

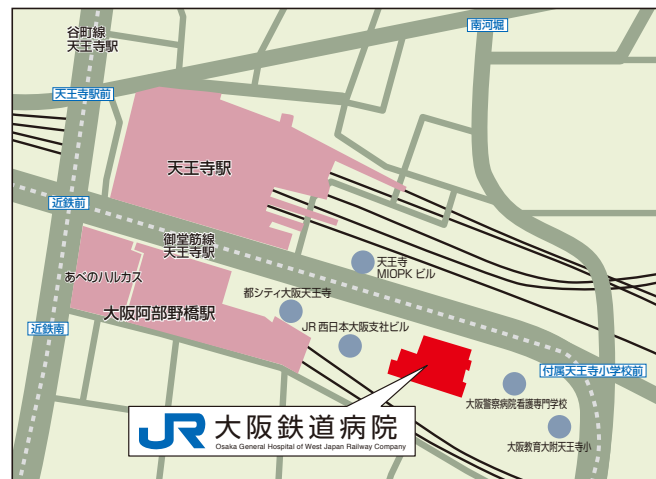
#### 【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。  
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。  
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。  
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。  
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

**JR 大阪鉄道病院**  
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22  
TEL.06-6628-2221 (代表) FAX.06-6628-2287 (代表)  
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707  
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分 診療開始／午前9時00分～  
休日／土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



## メディカル

よりよい医療の始発駅

ぽっぽ

vol. 4  
2020.12

診療科 UPDATE

耳鼻咽喉科

医長 鈴木倫雄

看護部の今 入院支援／退院支援

栄養室コラム

ようこそ臨床検査室

メディカルコラム

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症

登録医紹介

サポートに感謝！

医療サービス委員会の活動



**JR 大阪鉄道病院**  
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

# 耳鼻咽喉科

この春より、大阪医科大学より鈴木倫雄医師を医長に迎え、新体制がスタートしています。

内視鏡手術や検査への対応を始め地域に密着した基幹病院の役割を果たす。

## 医長 鈴木 倫雄

専門分野／鼻・副鼻腔、アレルギー性鼻炎、甲状腺腫瘍、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般  
資格／日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、大阪市難病指定医、大阪市障害認定医（聴覚、平衡感覚、音声・言語・そしゃく）



### 実感する鼻の手術の二一ス

私はこれまでに、鼻・副鼻腔専門外来やアレルギー外来など、鼻の分野の専門的治療を中心に研究、臨床経験を積んできました。頭頸部がん専門施設でも甲状腺手術・専門外来などにたずさわリ、診療を行ってきた経験があります。

今年4月に当院に赴任以降、新型コロナウイルスの影響で、周囲にさほどアピールできていないにもかかわらず、近隣の先生方より患者さんをご紹介いただく機会が徐々に増えており、たいへんありがたく思っております。

特に鼻の手術においては、当院でここ10年ほどは、人員的な部分も含め体制が整っていなかったこと、また周囲に積極的に取り組む病院があまり多くない印象があり、その面でもご期待いただいているのかなと考えています。生まれ変わった大阪鉄道病院耳鼻咽喉科としてお役に立てるよう日々アップデートし、より充実した体制を整えていく所存ですので、よろしく願ひいたします。

### NEW STAFF

#### 鈴木 英佑 医員

専門分野／アレルギー性鼻炎、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般

この春より大阪医科大学から参りました。診療では現在の病状の把握、適切な処方をし、過剰な検査・投薬は避けるようにしています。当院では今年度より阿倍野区近辺での入院を要する手術加療に力を入れています。特に多いアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎で、薬ではなかなか改善しない方には治療効果が期待できれば手術をおすすめしております。

### 安心安全な手術のマストといえる最新機器

さて、ご存知の方も多いと思いますが、耳鼻咽喉科の手術においても、他科と同様、低侵襲で治癒も早い内視鏡手術の導入が主となっています。さらに近年、より安全確実な内視鏡手術に重要な役割を果たしているのがナビゲーションシステムです。というのも、かつての鼻の内視鏡手術では、難易度の高い症例において、「鼻腔の中のどの部分を手術しているのか」ということを完全に把握するには熟練した術者の勘と経験だけが頼りでした。このため、安全を優先すると大胆な手技が行えないことも多く、期待どおりの成果につながらない場合もありました。

しかし、ナビゲーション機能を付加した機器の登場により、術野の三次元構造が視覚化され、使用している器具の先端がどこにあるのか、その先に何があるのか、リアルタイムで確認しながら手術することが可能になりました。今では高度で複雑な手術には必須のシステムとして活用されています。

当科でも私の赴任後、まずはナビゲーションシステムを含めた手術機器を導入し、より幅広い内視鏡手術に積極的に対応できる体制の確立を目指しました。コロナ禍の間にある程度の体制を整えることができ、おかげさまで手術目的のご紹介も数多くいただいております。当初は火曜日午前中のみを手術にあてていましたが、より多くの患者さんに対応できるよう、現在は火曜日終日を手術日としております。現状では2か月先まで予定が埋まっています。今後も状況を見ながら、より多くの先生方、患者さんのご要望にお応えできるよう努めてまいります。

## より安全な手術をサポートするナビゲーションシステム

術前に撮影したCT画像と内視鏡で観察する実際のご本人の鼻内を照らし合わせ、専用の器具を鼻内に挿入すると、どのあたりに器具の先端があるのか3次元構築されたCT画像内で確認できる仕組みです。



器具の先端がどの部分にあるかをリアルタイムでナビゲートすることができます。

磁場を用いるシステムなので手術中に放射線被曝することがありません。

画像提供・日本メドトロニック株式会社

### 多い慢性副鼻腔炎の手術

鼻の手術のなかでも大多数を占めるのが、慢性副鼻腔炎、いわゆる「蓄膿」の治療です。副鼻腔炎の手術は、通常、薬物療法で治らない場合に選択されます。近年では副鼻腔炎の早期発見・早期治療が進んだこと、投薬治療が進歩したこともあり、必然的に難治性の副鼻腔炎が対象となる手術が増えてきています。

当院にご紹介していただく患者さんも、投薬でコントロールが難しくなった方がほとんどです。なかでも「好酸球性副鼻腔炎」は難治性で、手術をしても再発を繰り返すことが多く、(重症例については)国の難病指定を受けています。適正な手術とともに、できるだけ再発しないよう、重症化しないようコントロールすることが重要になります。手術の前後も含め、かかりつけ医の先生方とも協力し、患者さんのQOL(生活の質)に配慮した、寄り添う治療を続けていきたいと思っています。

### <ご存知ですか、こんな治療>

#### アレルギー性鼻炎の「減感作療法」

減感作療法とは、アレルギーの原因物質(抗原)を少しずつ定期的に身体に取り込むことで身体を慣らし、反応を減らしていく免疫療法です。現在、アレルゲンはスギあるいはダニ(ハウスダスト)に限られますが、当院ではアレルギー性鼻炎の治療法のひとつとして積極的に取り組んでいます。

### 副鼻腔炎以外の手術も積極的に

当院ではこのほか、局所麻酔による日帰り手術にも対応しています。具体的には、狭い範囲の副鼻腔炎手術、アレルギー性鼻炎に対するレーザー手術などが日帰り可能な手術となります。長期入院が難しい方の選択肢のひとつにご検討ください。

鼻以外では、甲状腺腫瘍、扁桃炎、顎下腺腫瘍・唾石症、声帯ポリープなどの手術にも積極的に取り組んでいます。

また甲状腺がんについては当科で加療を行っていますが、「甲状腺がん」をのぞく頭頸部がん治療につきましては、設備やマンパワーの整った大学病院や専門病院等にご紹介させていただくことになります。しかしその前段階、疑わしい症例に対する精査や診断については、責任をもって対応してまいります。

### 幅広い疾患に対応

現在当科には非常勤を含め3名の専門医がおります。軽微の良性疾患も含め、手術以外のさまざまな耳鼻咽喉科疾患に対応しております。

現在は新体制の始動から間もないこともあり、準備が不十分のものもございますが、徐々に院内外の連携を進め、地域に密着した中堅病院として、求められる医療をしっかりと提供していきたいと考えております。登録医の先生方におかれましてはお気軽にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

## さらに充実した活動を目指す入退院支援看護師

当院では2018年春より入退院サポートコーナーを本格的に稼働させ、患者さんの入院時から退院後の在宅生活までを見据えた入退院支援体制を整えてきました。入院支援看護師と退院支援看護師を中心に、多職種が一丸となったスムーズな連携のもと、患者さんとそのご家族が望まれる暮らしの実現につなげることを目指しています。



### 入院支援

入院への不安を取り除き、  
落ち着いて療養して  
いただくために。

入院支援看護師  
**大谷 澄子**

入院を予定されている患者さんに安心して入院生活を送っていただけるよう、また、入院治療後、退院へとスムーズに移行できるよう支援するのが私たち入院支援看護師の役割です。現在、師長を含め6名で業務に取り組んでいます。

まずは入院を予定されている患者さんに、入院生活のオリエンテーションとともに入院後にどのような治療経過をたどるのかなど、今後についてイメージしやすいように説明させていただきます。入院するのが初めてという方やご家族を残して入院される方、あるいは独居の方など、入院時にどのような不安を感じておられるかは人それぞれです。患者さんやご家族も含めて可能な限りお話を伺い、そのご事情やお気持ちを含んで問題点を明らかにした上で解決策を提示し、できる限り不安を軽減して入院の日を迎えていただけるよう努めています。

同時に、治療後は退院へとスムーズに移行できるよう、身体面・精神面・社会面あらゆる側面から情報収集し、薬剤師や事務員、病棟スタッフ、退院支援看護師とも協働して業務に当たっています。チームとして他職種との連携を図るべく、3か月ごとの会議で情報共有しています。

昨年度は実際に入院支援を受けられた患者さんに対面式でアンケートを実施し、フィードバックする機会を設けました。「わかりやすく安心できた」「入院準備がスムーズにできた」などのお声を頂戴することができ、お役に立てていると実感できたことは嬉しかったです。

今後は対象科を現行の外科系と、内科系の血液内科・呼吸器内科・消化器内科から拡大し、より多くの患者さんをサポートできるよう調整中です。また、早期支援体制づくりを強化する意味でも、入院支援の時点で栄養評価や褥瘡(じよくそう)のリスク評価を実施していきたいと考えています。



### 退院支援

「退院してよかった」  
と思っただけ  
手厚いサポートを。

退院支援看護師  
**小笠原 希**

退院支援は、退院がゴール、目的というわけではありません。治療を終えた患者さんが安心して暮らしの場へ戻れるよう支援する業務であり、あくまでも退院後もその人らしい生活をまっとうしていただくことを目標としています。入院支援や病棟看護師をはじめ多職種と連携しつつ、支援が必要な患者さんと向き合うようにしています。なかでもコミュニケーションには力を入れ、退院後も病気や障害をもちながら生活をしていく患者さんやそのご家族が病気や治療についてどのように受け止めておられるか、これからどこでどのように暮らしていくことを望んでおられるかを丁寧に聞き取るようにしています。そして、それが実現できるよう調整に努めます。

そのためには、医療的な情報はもちろん、入院前の生活やお住まいの状態、ご家族関係など、ハード・ソフト両面の患者さんの状況把握が必要です。さらに入院中に受けてこられた介護や看護、医療を暮らしの場でも継続してもらうためには、地域との「顔の見える関係づくり」が欠かせません。地域療養担当者との入院早期からの情報交換やカンファレンスの開催、またときには退院後も訪問看護に伺い、その様子を病棟・入院支援看護師にもフィードバックするなど地域でどのように生活されているか部署を超えて情報を共有しています。

また、ソーシャルワーカーさんや訪問看護師さんとの情報交換も密に、患者さんがお住まいのどの地域でも、望まれる在宅医療に必要な環境を整えることができるよう、ネットワークを構築しておくことも大切です。入院治療が必要になった場合はすぐに入院でき、必要がなくなればすみやかに地域に戻る、そんな柔軟な体制のもと、よいバトンタッチができる連携を目指しています。

特に今年は新型コロナ禍による面会制限で、退院をご希望される患者さんが増えました。退院支援業務に携わる以前には「自宅退院されるのは困難では」と思っていたようなケースでも、実際に地域の訪問看護師さんや在宅医の先生方、介護職の方々の手厚いフォローのもとで落ち着いて療養生活や看取りを迎え、あらためて活動の意義を感じています。



## 栄養室 コラム

## 食事で免疫力を上げよう

気温もぐっと下がり、いよいよ本格的な冬がやってきます。こうした季節の変わり目は、免疫力や抵抗力が低下してしまいます。風邪や感染症にかからないためにも日頃の食生活を見直し、免疫力向上を図りましょう。

### ●免疫細胞を育て活性化するために

まずは腸に存在する免疫細胞をきちんと生み出して機能させる食生活を。

#### point>たんぱく質をしっかり摂る

たんぱく質は免疫細胞の主成分になります。良質なたんぱく質を含む肉、魚、大豆製品を毎食一品摂り入れるようにしましょう。



#### point>ビタミンA、C、Eを摂る

これらは抗酸化作用があり、粘膜を丈夫にし免疫細胞の数を増やすとともに活性化してくれます。緑黄色野菜や根菜、果物、ナッツ、うなぎ、レバーなどに多く含まれています。



### ●腸内細菌に注目！

腸内に存在する「善玉菌」「悪玉菌」という言葉を聞いたことのある人も多いと思いますが、健康を保つのに必要なのは善玉菌。これが免疫細胞とタッグを組んで免疫効果の維持に重要な役割を果たします。食生活で善玉菌を増やしましょう。

#### point>乳酸菌+食物繊維、オリゴ糖を摂る

善玉菌を摂る

ヨーグルト・ぬか漬け・キムチ・乳酸菌飲料などの発酵食品



善玉菌を育てる

野菜・果物・きのこ・芋類・豆類・海藻 など



一緒に摂ると効果的

## ようこそ臨床検査室

【大阪鉄道病院の臨床検査室】

### 検体検査部門

患者さんから採取した血液、尿、便などを検査

### 生理検査部門

直接患者さんと接して心臓や腹部、肺、脳神経などを検査

### 生殖医療部門

不妊症の患者さんからお預かりした卵子や精子の受精や受精卵を培養

こちらのコーナーでは、部門ごとに検査の内容や機器を少しずつご紹介してまいります。

### 生理検査部門【その1】患者さんとのコミュニケーションを大切に。

2階画像診断センターにある生理検査部門。患者さんと接する検査の最前線という自覚のもと、技師たちは緊張感をもち手際よく正確に検査を行うとともに、患者さんに少しでも早く検査を受けていただけるよう、患者さん目線を大切にしたい対応を心がけています。

### <超音波診断装置のご紹介>

超音波を用いて体内の病変を調べる、いわゆる「エコー検査」。体表から体内に超音波を発信し、組織からの反射波(エコー)を画像化することで、対象物内部の病変の有無や大きさ、形状、深度などを調査することができます。検査時の痛みや放射線被ばくのない、安全な検査です。当院には、高い精度と機能を備えた計6台の超音波診断装置が稼働しています。

### ●検査対象

腹部(肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓)、甲状腺、心臓、頸動脈、下肢血管・超音波診断装置の観察下で電極針を穿刺し、肝がんの代表的な治療である「ラジオ波焼灼術(RFA)」も行なっています。



PHILIPS EPIQ 7G



GE Vivid E95



canon aplio 500

## インフルエンザと新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

いよいよインフルエンザシーズンですが、今年は新型コロナウイルス感染症もあり、例年とはかなり異なる様相を呈しています。インフルエンザについての基礎知識とともに、注意すべき点などをご紹介します。

### 【インフルエンザとは】

インフルエンザウイルスを病原とする感染症。その型によって大きく A 型、B 型、C 型の 3 種類に分類されます。C 型は感染力も症状も軽くあまり問題になることがありませんが、A 型・B 型は一般の風邪とは一線を画し、重くなりやすく感染力の強い疾患です。特に A 型は種類が多く変異したウイルスが次々に出てくる特徴があること、人以外にも感染する特徴があり、注意が必要です。

#### インフルエンザ A 型・B 型の特徴

潜伏期間／1～3 日ほど  
 症状／38 度以上の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛、咳、鼻汁などの上気道炎症状が見られることも。重症化しなければ約 1 週間で改善。

### 【インフルエンザワクチンとは】

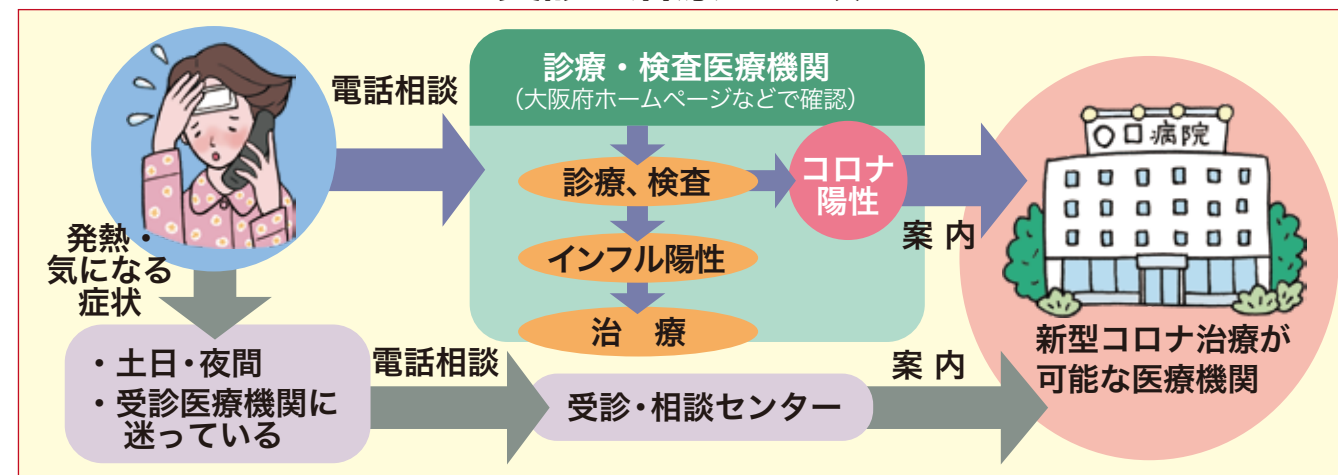
ワクチンを接種することで体内に抗体をつくり、インフルエンザウイルスに感染しても発症を抑える、もしくは発症しても重症化を予防する効果が期待できるものです。毎年、そのシーズンに予測される種類のインフルエンザに対するワクチンを混合して供給されます。接種から効果が現れるまでは約 2 週間かかり、その後免疫を維持できる期間は約 5 か月です。

●今年をご存知のように 10 月から接種を開始しています。特にリスクが高い(※)にもかかわらずまだお済みでない方は、遅くとも 12 月半ばまでに接種されることをおすすめします。  
 (※)65 歳以上の方、妊娠中の方、喘息、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病など代謝性疾患のある方

### 【新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ】

感染を引き起こすウイルスは異なりますが、どちらも伝染性の呼吸器疾患であり、感染経路や症状は非常に似ています。また、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症を併発する可能性もあります。身体や喉の痛み、発熱、呼吸器の症状がある場合は、自己判断せず、医療機関または保健所に連絡し検査を受けましょう。

### ＜受診・治療の手順＞



### ＜予防のポイント＞

新型コロナウイルス感染症と同様の対策が、インフルエンザや他の感染症から身を守ることに繋がります。  
 ●マスク、手洗い、咳エチケット  
 ●ソーシャルディスタンス  
 ・人混みは避ける  
 ・人との会話はできるだけ 2 メートル以上の距離を置いて  
 ・会食時はできるだけ話さない

### ＜ここに注意！＞

最近よく見るマウスシールドですが、マスクと同等の効果は期待できないとされています。人と人の距離が空けられない場合は、マスクを着用しましょう。当院では医療用マスク+眼の保護のためにゴーグルを着用し、感染対策に取り組んでいます。



## 登録医紹介

### うんの 海野診療所

標榜科：外科、皮膚科、内科、リハビリテーション科  
 住所：〒547-0027 大阪市平野区喜連 2-5-45  
 電話番号：06-6705-5441  
 アクセス：大阪メトロ谷町線「喜連瓜破」駅 3 番または 1 番出口より徒歩 1 分  
 HP アドレス：http://www.unno-sinryousyo.com



院長 海野 勝利先生



副院長 海野 早百合先生

#### ― 御院についてお聞かせください。

外科・内科を海野勝利、皮膚科を海野早百合が担当、長男の貴史もチョビツと手伝っています。患者さんには何事にも理解を深めてもらうよう努めているので、少々口うるさいかもしれません(笑)。

#### ― 日々の診療のなかで心がけていらっしゃることはありますか。

診察室を出て行く患者さんが笑顔になっているような診療を、と考えています。

#### ― 医師に必要なものは何だと思われますか。

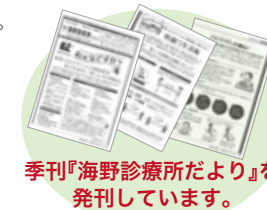
医療技術はむろんのこと、信頼される人格を備えることが基本ではないでしょうか。

#### ― 患者さんへのメッセージをお願いいたします。

より適切な治療のために、患者さんに大切にいただきたいのは、次の 4 つです。

1. 診察を受けた医師をまず信頼すること
2. 医師の指示を忠実に守ること
3. 疑問や不満があれば自分勝手に判断しないで必ず診察医に問い合わせること
4. テレビやネットの情報を鵜呑みにしないこと

私たちも心から信頼してもらえる診療所でありたいと、日々精進しています。



季刊『海野診療所だより』を発刊しています。

+α  
 大学での所属医局は胸部心臓血管外科、医学博士。帰阪して城北市民病院外科に就職。外科長を経て、平成 2 年(1990)に開業いたしました。体育会系です。趣味はクラシック音楽。

外 観

## サポートに感謝！

### 当院の活動を支える委託スタッフをご紹介します

多岐にわたる業務で院内の安全安心を守る。

### 【株式会社 ルート・ワン 防災センター】

#### 業務内容

警備員として人・物・車両の出入管理、敷地内の巡回、警報発報時の対応、数百本を超える鍵の管理の他、拾得物の預かりや返還、休日の電話対応、受付業務等々院内を守る幅広い取り組みをしてくださっています。さらに昨今の新型コロナ禍で、感染対策室の施解錠や室内への誘導、感染疑いのある患者さんのお荷物の預りと病棟への連絡、ゲストカードの消毒と、さらに幅広い業務にご対応いただいています。

防災センターでは、院内の安心と安全を陰ながら支えるべく、警備員が 365 日 24 時間常駐しています。休むことなく稼働しているため院内でのさまざまな出来事に遭遇しますが、それらの情報を常に警備員一同で共有し、トラブルを防げるよう研鑽しております。また、警備員には多種類の国家試験がありますが、当社では個々の能力を向上させるべく、それら国家試験の合格を目指し、講習の受講や勉強も積極的に行なっています。

警備業のなかでも特に病院における警備においては、非常にコミュニケーションが重要だと感じています。不安を抱えている患者さんや面会者さんのお気持ちを少しでも理解し、安心していただけるよう、相手に寄り添ったコミュニケーションを心がけています。大阪鉄道病院に来院される方々とお話させていただくと、近隣にお住まいの方が多く、地域住民の方々とともに病院をつくりあげているようなあたたかさを感じます。日頃から「安心・安全を守っている」という責任感に比例した充実感を得ていますが、患者さんやご家族、また院内で従事されている方々に「ありがとう」の言葉をかけていただくことも、大きな励みとなっています。

コロナ禍の現在、出入り口にある防災センターは人と関わる機会也非常に多く、万が一感染するとたちまちクラスターとなる危険性があります。ゆえにマスク着用の徹底はもちろん、出勤時の検温やこまめな消毒等を徹底し、院内の安心安全を守るためにも、強い意識をもって行動しています。何かお困りのことがありましたら、どうぞお気軽にお声がけください。



警備員 副隊長 木原 翔さん

